

【ものづくり 人づくり 地域づくり】 10 / 19 秋の生協まつり①

2013 秋の生協まつり

組合員みんなの参加で大成功!



先日の祭りで、塩屋さんのコーナーでお手伝い担当。しじみやあさりの事を色々と教えていただき、とても勉強になりました。生産者の方のこだわりのようなものも見えて、気持ちが伝わってきました。
(つくば市 高橋さん)

〇生産者と一緒に!



生協祭りおつかれさまでした。とても楽しかったです。お世話になりました。ありがとうございました。また来年もお手伝いしたいです。
(取手市 柴田さん)

生協まつりのお手伝い、娘と楽しく参加させていただきました。娘も「来年もまたやりたい!」とっていました。コロッケ とても美味しかったです。
(柏市 藤原さん)

組合員皆様のご協力に感謝申し上げます!

今年は114名もの組合員の皆様により、チラシまきからポスター張り、前日準備、当日の出展お手伝いに至るまでご協力頂きました。感謝申し上げます。
組合員皆様のお声かけもあり、おかげさまで、当日は**総勢247名の参加**がありました(昨年比104%)。常総生協に未加入で地域にお住まいの49の家族が生協を訪れ、楽しんで頂けました。



【お話し会のおしらせ】

「そこに僕らは居合わせた」
11月16日(土) 15時~
つくば市民活動センター

~語り伝えるナチスドイツ下の記憶~ 忘れないための物語
ナチスの時代、ドイツで何があったのか? 孫が祖父母の世代に聞いた20の物語。人間の弱さ、愛、善と悪。当時の記憶を子供でも分かりやすくひも解いた本の朗読会(おやつ付き)。

申し込み:090-1732-9156(せきや) (主催:テレビンを語る会茨城)

「ちらし配って、ポスター貼って、お話しして…。 とにかくみんなで動いた生協まつり」

とにかく今年は多くの組合員が準備や広報から参加してくれたお祭りでした。感謝！

台風の合間を縫って、手際良い祭り準備は勢いがありました。チラシ作成から始まり、当日進行も含めて若手職員が大活躍。また、皆さんの気持ちがひとつひとつの行動となって随所に発揮されていました。

3・11震災、原発事故から2年半の経過は、被災地の復興はもちろんですが、放射能汚染による食べ物の検査、安全策、学習等々、それらに伴う署名活動や省庁交渉にも及ぶ組合員の大活躍がありました。

それらの願いは、生産者の皆様方にもご支援ご協力をいただき、子どもたちを守ろうとする健康調査支援策にも走りまわりました。「どうして生協がそんなことまでするの？」の声もありましたが、必要であれば、自分たちのことを自分たちで守っ

ていこうと考え出しもするのです。一人一人の力は小さいけれど、協同し合って支え合い、力を育み合う皆さんの居所が生協です。

初企画の「暮らし見直しフリーマーケット」、今後の工夫に望みを託しましょう。新たな取り組みへのご協力に感謝を申し上げます。

今回は次世代の担い手にもお出ましいただき、遠慮気味のご挨拶に大きな拍手でした。生産者ブースには総代さんはじめとても素敵でした。ありがとうございました。

祭りは秋のくつろぎ。「やった」「できた」「良かった」「もうちょっと」は、新たな次へつなげていきましょう。

理事長 村井和美

●お知らせ活動 ～チラシまきに、ポスター貼りに頑張りました！

2013年秋 常総生活協同組合

今年も「美味しい！かつやから！ みんなではじめよう！ 食と暮らしの見直し」

常総生協 秋の生協まつり

日時 10月19日(土) 10:00~14:00

会場 常総生協 本部1階(常総市) (住所:茨城県常総市本町3-1-1)



今年も「食と暮らしの見直し」から！ 元気な生産者が大集合！！

常総市常総1-1-1 常総生活協同組合 電話 050-5511-3926

今年は本当に多くの組合員の皆さんが準備に関わって下さいました。感謝致します。

例えばちらしまき。「犬の散歩のついで近所を配るよ」、「友達にわたすね！」と、皆さん快くお引き受け下さいました。また、「ポスター、家の塀でよければ貼りますよ」「マンションのエントランスに貼れるか、管理人さんに相談してみるね！」と、多くの組合員と一緒に地域にお知らせできました。

生協の仲間を増やすこと、知らせることに、「自分のできること」から関わって頂き、役職員一同嬉しい気持ちで一杯でした。

●実行委員会&前日準備 ～わくわくの仕掛けを皆で考えました～



まつり実行委員会は開催前日までの間に2回実施できました。その中で「どうやったら面白く、かつ混乱なく実施できるか」、皆さんの経験から出されたアドバイスと提案が積極的に飛び交いました。



前日準備は理事、組合員、職員みんなで分担し、まさに準備万端。皆で作りましたお祭りがいよいよ始まります！

【2013 秋の生協まつり】報告(1)

「さあ、まつり当日！ 組合員、生産者、職員が一緒になって！」

当日は朝早くから生産者、組合員と一緒に準備。職員も頑張りました。

●西は愛媛、北は石巻、山形から！27の生産者が生協に集結！



遠く、愛媛は明浜から無茶々園の高瀬さんが馳せ参じてくれました(右)。つくばの清水さんと。



石巻の高橋徳治商店からは息子の高橋利彰(としあき)さん(右)が来場！柏の栗原さん親子と。



ひたちなかからは「潤沼しじみ」でおなじみ、塩屋の久保田さん。つくばの高橋さんと。



朝焼きパンとともに相模原から、おかべやの影山社長。松戸の今井健人君と。



神奈川県大和市からニッコーの山崎社長(左)。柏の石川さん、龍ヶ崎の上田さんと。



仙台から「趙さんの味」の李さんが芋手をたくさん持参。牛久の小松田さん、柏の牧野さんと。



おなじみ「やさとの仲間」の田中さん(左)、天池さん(中)。守谷の丸町さんと。



浜松より、たちばなファームの岩井さんがたくさんのみかんと共に！土浦の相崎さんと。

●組合員さん家族と生産者が一緒に盛り上げました！



山形からは白鷹農産加工研究会の鈴木さん、奥山さんが来場。サポーターは、夏の山形キャンプに参加した向井さん一家と、熊野さんの姉弟(きょうだい)チーム。夏の思い出がよみがえります。海藻のコタニさんでお手伝いをした女の子(右)は、出張して来場したみなさんに海藻を一生懸命おすすめしていました。ありがとうございます！



●今年は若手職員が奮闘！



若手職員からの発案で今年初めて企画しました「生産者インタビュー」。ものづくりの現場の様子の様子、苦労、喜びを聞きました。聞き手は供給担当伊藤(左)。

●組合員参加のフリーマーケット ～「暮らし見直し」の第一歩～ 生協では初めて開催



ご出展ありがとうございました！

- 島崎さん(子ども服、雑貨など)、■今井さん(おもちゃ)、
- 小松田さん(ハンドメイド人形)、■板子さん(手作り雑貨)、
- 小浦方さん(綿織物各種)

今年のテーマは「暮らし見直し」。出来るだけお金をかけないで、必要としている仲間の手に渡って無駄なく使われる。そんなことが当たり前になればと、今回のお祭りと同時間開催で企画しました。出展された皆さんは前日準備が大変でしたと思います。運営上の課題は多々ありましたが、第一歩のご協力に感謝致します。次回は春先開催予定。

子どもたちは原発事故でどのくらい内部被ばくしたのか？

今週は「母乳からのヨウ素 131 検出濃度から逆算した空気中濃度」から大人と乳児の「甲状腺等価線量」を出してみます。

まず、吸収したヨウ素 131 の日本人の母乳への平均移行率を 20% から「半分の 10%」に下げ、そこから逆算した空気中ヨウ素 131 濃度と測定された濃度の比は次のようになります。

実際に吸入したと推定される濃度① / 観測所の測定濃度②	差違倍率 (カッコ内は日にち)
つくば市の母親の母乳濃度から逆算した空気中濃度① つくば市で観測された空気中濃度②	6.9 倍 (3/24) - 20.0 倍 (3/31)
守谷市の母親の母乳濃度から逆算した空気中濃度① つくば市で観測された空気中濃度②	2.3 倍 (3/22) - 24.4 倍 (3/31)
柏市の母親の母乳濃度から逆算した空気中濃度① 千葉市で観測された空気中濃度②	12.5 倍 (3/30) - 126.7 倍 (3/31)

母乳中ヨウ素 131 濃度から逆算した空気中濃度①と研究機関等で観測されたヨウ素 131 の空気中濃度②に隔たりがあるのは、ガス状だったり粒子状だったりする放射性ヨウ素を研究機関の測定器がすべて補足できていない可能性があること (フィルターに不足があるか、あるいは吸入口が 2 階ベランダで高く実際に人がいて呼吸する高さの濃度でなかったりとか)、実際にはブルーム通過後あるいは降雨による沈着後、長く地表付近に放射性ヨウ素ガスが「漂っていて」それを吸入していた可能性もあること。

吸入した放射性ヨウ素が長く体内に残留していて、4 月末になってまで母乳に排出され続けたと考えることもできるが、それはヨウ素 131 の体内動態のこれまでの知見とは異なること。

ヨウ素 131 の空気中濃度が極めて低くなる 4 月以降は誤差の範囲が大きくなると考えられますので、濃度がピークに近い期日の倍率を取ると、最低でも 2 倍の濃度、最高でも 20 倍の濃度の範囲です。仮に少なく見積もって観測所の測定値の 2 ~ 3 倍としましょう。

もちろん、外で思い切り空気を吸ったり運動していた場合と、当時は家の中にこもって外出は控えた人とは呼吸量も濃度も違ってきます。中高生では 3/15 ~ 16 に外で部活をしていたとか、卒業式に親子で出たとかの事情によっても違ってきます。

【1】大人の吸入量と甲状腺等価線量評価

いろいろな状況はあるにせよ、つくば～柏に至る茨城県南～千葉北西部にいた「大人」は 3/15 ~ 31 までの半月で少なくとも **3,400 ~ 10,200Bq (ベクレル)**

のヨウ素 131 を身体に吸い込んだ計算になります。

「内部被曝を考慮しない過小評価」と批判される ICRP の甲状腺等価線量係数「0.00019」(大人) を掛けて大人の甲状腺等価線量を導くと、

0.72 ~ 1.94mSv (ミリシーベルト) となります。

【2】茨城南～千葉北西の乳児の吸入量と甲状腺等価線量評価

次に、乳児 (1 歳児) は自分自身の呼吸 (1 日 5.2 m³) と、毎日 700ml の母乳 (母親からのヨウ素 131 移行率 10%) を飲んで育てていたとすると、半月で少なくとも

1,300 ~ 3,900Bq (ベクレル)

のヨウ素 131 を取り入れていたことになります。

今でこそ、食品に「10 ベクレル /kg」というとちょっと控えますが、当時は呼吸しているだけでこれだけの放射能を吸い込んでいました (しかも甲状腺等価線量を評価するためにセシウムを無視しています)。感受性の高い子どもたちに鼻血や口内炎などの症状があってもおかしくなかったと思います。

ICRP の甲状腺等価線量係数「0.0025」(1 歳児係数: 大人より 1 桁大きい) を掛けて甲状腺等価線量を導くと

3.25 ~ 9.75mSv (ミリシーベルト) となります。

【3】安定ヨウ素剤投与の基準

では、この被ばく線量が高いのか低いのかというと、日本の「介入レベル」(政府によって安定ヨウ素剤投与が行われる基準) は小児の甲状腺 (予測) 線量で 100mSv。

アメリカの介入レベルは妊婦・授乳婦と 18 歳以下の子どもの甲状腺線量で 50mSv。イギリスもフランス、ドイツも乳児または小児の甲状腺予測線量で 50mSv。

【甲状腺への吸収率の違い】

ヨウ素の甲状腺への吸収率は「年齢と食生活」によって左右されます。

【年齢による吸収率の違い】

乳幼児はヨウ素を原料に甲状腺ホルモンを産出してグングン大きくなっていく時期で、身体に取り込んだヨウ素の甲状腺への吸収率は 20% ~ 70% と幅があるとされています。

【食生活の違い】

他方、日本人の食生活は海藻類が多く常にヨウ素を供給している態勢にあること、従って赤ちゃんにも母乳から常時必要なヨウ素が供給されていて母乳への移行率も低いことを紹介しましたが、安定ヨウ素と放射性ヨウ素を区別はできないものの、同じように呼吸でヨウ素 131 が入ってきて「もう充分あるよ〜」(これ以上いらないよ) と、甲状腺には吸収せざるに尿から排泄してしまう可能性もあります。

1 日 5 ミリグラム以上も食事からヨウ素を摂っているお母さんの母乳への移行率が 1% 以下というデータもあり、食生活によって大きく幅があります。

食卓に普段からわかめや海苔が出される場合や、福島事故後に海藻類を意図的に食卓に上げて摂取していた場合などは母乳へのヨウ素 131 の移行も少なく、また子どもも十分に安定ヨウ素を蓄えている場合は、甲状腺被曝は大きく抑えられたと考えられます。

この点では、海藻類の摂取が少なく、ヨウ素欠乏症の多かったチェルノブイリ周辺の子どもたちとの違いがあると考えられています。

いずれにしろ、ヨウ素 131 による「初期被曝線量評価」は、当時どこにいて呼吸をしていたか、その時の年齢層、食文化・食生活、そして個々人の感受性の違いによってリスクの幅があります。

【4】福島の 1 歳児の甲状腺等価線量評価

さて、2011/3/15 に関東に南下して再び福島に再北上したヨウ素主体の放射性ブルーム通過で、それぞれの地域の「空間線量率」は大きく跳ね上がりました。

空間線量率の跳ね上がりはヨウ素 131 の濃度と判断されます。この空間線量率の地域別の比較をしてみましょう。

図表の 3/15 ブルーム通過時のピーク線量率を見て下さい。



つくば・柏の 0.78μSv/h を 1 とすると、東海村・水戸市は 6 倍、北茨城市で 20 倍、いわき市・福島市は 30 倍、大熊町で 488 倍です。(つくば以南はグラフに表せないほど福島が高い)

先ほど、茨城南部～千葉北西部の母乳から推定した呼吸と母乳からの 1 歳児甲状腺等価線量は 3.25 ~ 9.75mSv と推定しましたが、この倍率をあてはめると、東海村や水戸の乳児の甲状腺等価線量は 20 ~ 59mSv。北茨城で 65 ~ 195mSv。いわきや福島市では **98 ~ 293mSv**、大熊～飯館にかけての汚染地帯を避難した 1 歳児甲状腺等価線量は **1.586 ~ 4.758mSv** にもなります。もし、乳児の甲状腺吸収率が 20% でなく 70% に及ぶ場合はその 3 倍以上になります。

私たちの政府は甲状腺被ばく線量予測もできずに、安定ヨウ素剤投与という初期防護にも失敗したことになります。

【5】国連科学委員会による「過小評価」

ところが 2013 年 5 月、国連科学委員会 (UNSCEAR) は計算根拠も示さず、日本政府から提出された資料にもとづき、「日本における 1 歳児甲状腺被曝等価線量は福島 30km 圏内で最大 82mSv」「チェルノブイリの 1/30」「被ばく線量は少なく、健康への明確な影響はないとみられる」などと発表しました。